

## 社会情勢の変化について

品川区まちづくりマスタープラン改定

# 1 現行の品川区まちづくりマスタープラン(2013(平成 25)年2月)策定当時の社会背景と現状認識・課題

○現行計画は、「少子化・高齢化」「地球環境問題の深刻化」「東日本大震災を契機としたより強力な防災まちづくりの推進ならびに新たな防災上の課題に取り組むことの必要性」を考慮して策定した。

## 【策定委員会での社会背景・現状認識の整理】

- 平成 32(2020)年をピークに区の人口は減少する予測
- 少子化・高齢化が進展し、人口構成も大きく変化  
[高齢化率 18.1%(H17)→24.1%(H42 予測)]
- 切迫する首都直下型地震に対する備えの遅れ
- 民間マンションや大規模団地の老朽化と空き家の増加
- 地球温暖化など地球環境への負荷が大きくなっている
- 水やみどり、都市景観に対する区民意識の高まり
- 地域産業の構造の変化が急速に進展  
(研究開発・情報通信関連産業等の増加)
- まちづくりに対する地域住民の関心、意識の高まり

まちづくりの課題抽出のキーワード ※現行計画策定当時

### ○ 土地利用と開発誘導 ○

広域活性化拠点(開発誘導)／  
木密地域／良好な住環境／  
身近な拠点市街地／  
次世代に継承する都市景観／  
開発機会を捉えた地域貢献

### ○ 水とみどり ○

都市の環境や安全等／  
身近に親しめる水辺空間／  
品川らしいまちづくり  
(みどりと伝統、都市空間)／  
多様な主体による育成

### ○ 防災まちづくり ○

木密地域の防災性／  
安全な避難・円滑な救援／  
帰宅困難者等への対応／  
浸水被害等の被害最小化／  
震災復興

### ○ 都市基盤 ○

生活道路／公共交通の利便性／  
高齢化等への対応／狭道路／  
老朽化した橋梁／  
各拠点の開発動向への対応

### 区基本構想の将来像

「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」  
の実現

### ○ 都市景観 ○

景観政策／  
歴史や伝統・文化／  
自然を感じる景観／  
地域の特徴を活かした景観／  
新たなまちづくりとの連携

### ○ 環境まちづくり ○

低炭素型都市づくり  
(エネルギー利用効率化)  
(グリーン化)／  
交通の環境負荷／  
ヒートアイランド現象／  
住宅や住まい方の環境負荷

### ○ 住まいと住生活 ○

既存の住宅ストック／  
高齢者や障害者向けの住宅  
・バリアフリー化／  
子育て世帯向けの居住／  
住宅に困窮する世帯／  
木密地域における住環境

出典：第三回品川区まちづくりマスタープラン策定委員会／2011(平成23)年12月9日(金)、品川区まちづくりマスタープラン概要版／2013(平成25)年2月策定

# 2 計画改定検討の前提として展望する「次世代の社会」

- 首都直下型地震など大規模災害の切迫性は引き続き高く、**災害に対する備えの重要性**はさらに高まっている。
- AIやIoT等のデジタル化の急速な進展や新型コロナ危機がもたらしたニューノーマルなどを背景にした**生活様式の変化**に対応した都市政策が求められている。
- 温室効果ガス排出量の削減など**地球環境問題**に対して、国・地域、公共・民間など様々な場面で取り組みが展開されているが、目標達成に向けた道筋は厳しい状況にある。
- 平成 27(2015)年 9 月の国連サミットで採択された「**持続可能な開発目標(SDGs※)**」は、2030(令和 12)年を年限として、「**誰一人取り残さない**」社会の実現を目指す国際目標で、品川区長期基本計画においても、その達成に資するものとして各施策が定められている。

※SDGs:Sustainable Development Goals

## 品川区長期基本計画(2020(令和2)年4月)の各施策とのSDGsの関係



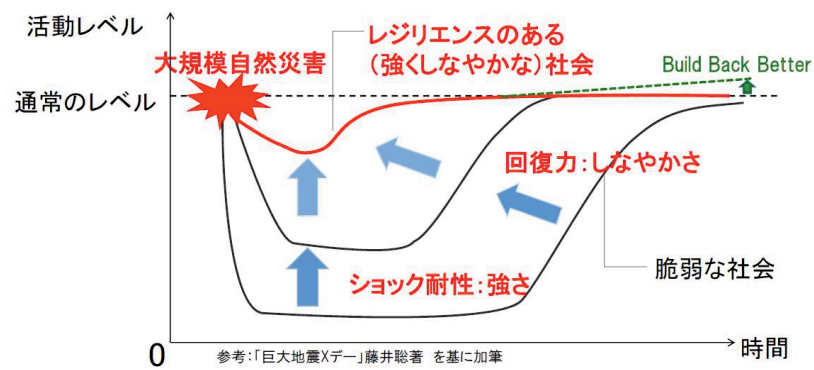
次世代に求められる社会

近年では、様々な社会的課題に対応しつつ、次世代の社会や都市・まちへの変革・進化を先導する様々な考え方が示されている。

- ① レジリエントな社会とまちの強靭性
- ② スマートシティとデジタルトランスフォーメーション(DX)
- ③ 新型コロナ危機を契機に変革する「人間中心」の社会
- ④ 脱炭素社会とカーボンニュートラル
- ⑤ 多様化を支えるダイバーシティ社会

### ① レジリエントな社会とまちの強靭性

○激甚化・頻発化する風水害や切迫する大規模地震等のリスク、起きてはならない最悪の事態、まちの脆弱性を想定し、**長期的かつ幅広い視野で、平常時(発災前)からの取組み**を進め、**「強さ」と「しなやかさ」を持った社会、まち**をつくっていくことが重要となっている。



出典:国土強靭化の取組の推進について (2021(令和3)年1月 内閣官房 国土強靭化推進室)

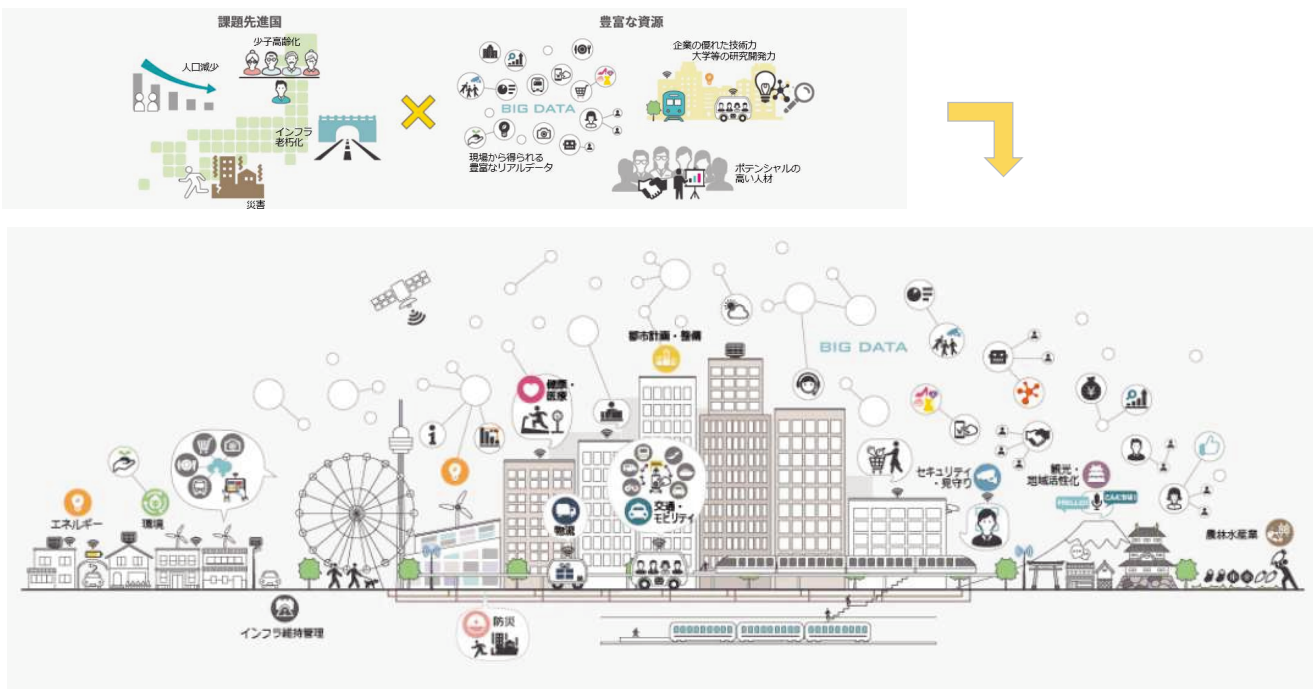


出典:国土強靭化パンフレット (内閣官房 国土強靭化推進室)

### ② スマートシティとデジタルトランスフォーメーション(DX)

○IoT(Internet of Things)、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータなどの先進的技術の活用で、一人ひとりの細かなニーズに寄り添い、**都市・社会の課題解決や機能・サービスを効率化・高度化・最適化**していくスマートシティの取組みが各地で進んでいる。

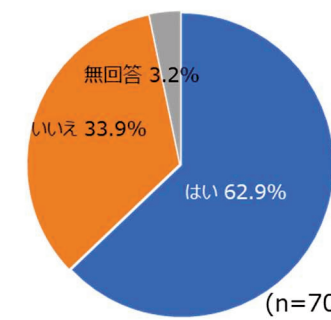
○交通、エネルギー、行政、医療、暮らしを支えるサービス等、様々な都市機能やサービス、都市計画・まちづくりにデータや新技術を導入し、**持続可能で人間中心、機動的なまちづくり**を進めるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進が求められている。



出典:スマートシティ官民連携プラットフォーム (国土交通省 HP)

### ③ 新型コロナ危機を契機に変革する社会

○2020(令和2)年から新型コロナ感染拡大による社会経済への影響が広がり、三密(密閉・密集・密接)の回避や行動制限、テレワークの浸透など**人々の生活や行動・意識・価値観に変化**が生まれ、**今後の定着・加速化の動向に対応した社会・まちの変革**が求められている。



コロナ禍における区民の働き方・暮らし方の変化  
「変化があったと回答した区民」約62.9%

働き方の変化(上位3つ)	暮らし方の変化(上位3つ)
①在宅勤務やオンライン授業が増え、出社・通勤機会が減った (約70.0%)	①自宅や地域で過ごす時間が増えた (約85.7%)
②電車の利用をやめ、自転車や徒歩で出社・通学するようになった (約11.5%)	②オンラインでの購入の機会が増えた (約33.6%)
③転職した、副業を始めた (約10.6%)	③地域の商店街や商業施設などの利用が増えた (約25.6%)

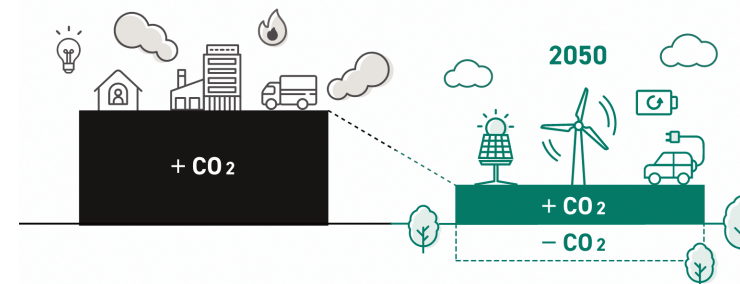
出典:品川区まちづくりマスタープランについてのアンケート調査結果報告書(2021(令和3)年7月実施)

### ④ 脱炭素社会とカーボンニュートラル

○政府の2020(令和2)年10月の「脱炭素社会」の実現を目指す宣言に伴い、低炭素社会から、**「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」社会**を目指すこととなった。

【カーボンニュートラル】

人為的な「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実施ゼロとすること



出典:脱炭素ポータル(環境省)

### ⑤ 多様性を支え活かすダイバーシティ社会とイノベーションを創発する空間

○多様な背景や価値観を持った一人ひとりの違いや個性が尊重され、個々の能力が創造性と競争力ある社会の力の源泉となって活かされていく社会への変革が求められている。

○シェアオフィスやコワーキングスペースなど、限定的なオフィスとその人間関係に縛られずに利用できる**「オープンな仕事場・活動の場」**は、様々なスキルを持つクリエイティブなひとが会い、**創造的な交流やコラボレーション、イノベーションが創発されやすい場所**として、多様性を活かす社会の中で重要性を増している。



多様性を社会の力に活かす場と機会  
出典:品川区長期基本計画 (2020(令和2)年4月)

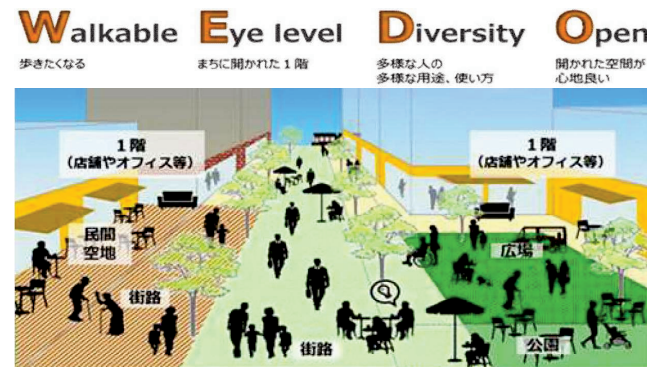


コラボレーション、イノベーションが創発される空間  
武蔵小山創業支援センター  
出典:品川区 HP

## 次世代のまちづくりの方向感を示す動き

### 1. ウォーカブルなまちづくり

- まちなかを車中心から人中心の空間へと転換し、多様なひとが集い、憩い、創造的な活動を展開できる「居心地のよい場所」へと変えていく取組みが広がっている。
- 特に、新型コロナ危機を経験して、まちなかのオープンスペースの価値が再認識され、このような取組みが加速している。



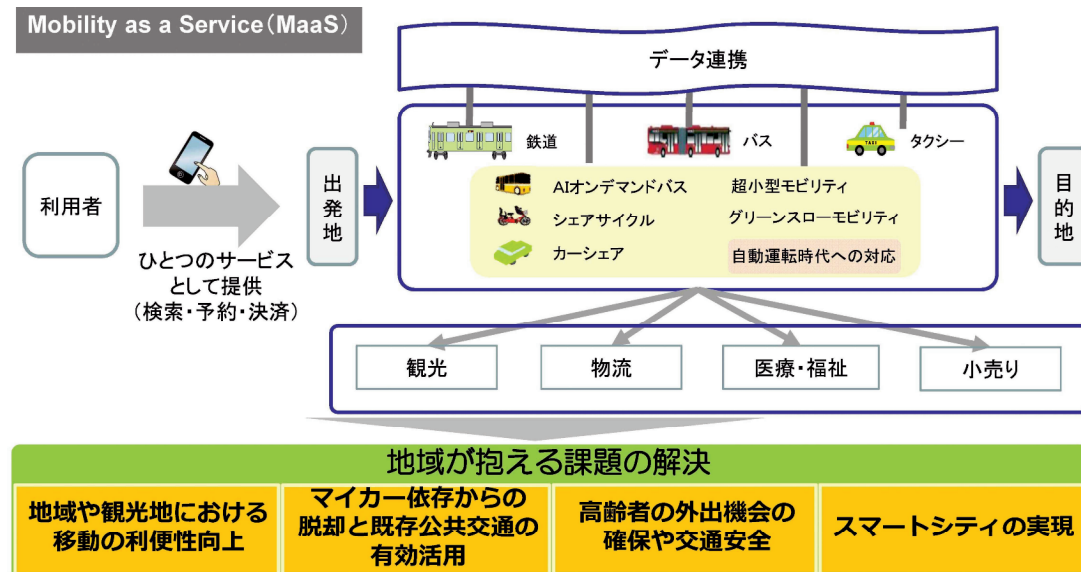
出典:「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生 (2019(令和元)年6月 国土交通省都市局)



出典:国土交通省報道発表資料(2019(令和元)年12月10日)「居心地のよい、歩きたくなる街路づくり」広がっています

### 2. 境目のない移動環境 (MaaS: Mobility as a Service)

- 一人ひとりの移動ニーズに対応し、複数の公共交通や移動手段を最適に組合せて検索・予約・決済をスマホアプリ等により一括で行うサービスで、移動の自由度や快適性、利便性が高まると言われている。
- 観光、物流、医療・福祉、小売り等との連携で、まちの課題解決にも期待されている。



出典:国土交通省のMaaS推進に関する取組について (2019(令和元)年12月6日 国土交通省)

### 3. グリーンインフラ

- 自然環境がもつ機能を引き出し、防災・減災、地域振興、生物生息空間の場の提供、社会の様々な課題解決に多面的に活用することで、持続可能な社会や自然共生社会の実現、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資に貢献していくことが重要と考えられている。

水辺 × 景観 × 防災 × 観光

公園 × 防災



出典:しながわ WEB 写真館

### 4. プレイスメイキング

- 普段暮らしているまちの、ちょっとした公共空間(スペース)を、居心地のよい場所、愛着のある居場所(プレイス)に変えていくことが各所で見られるようになってきている。
- 自宅や職場・学校などとは違う、このような第三の居場所(サードプレイス)は、義務や必要性に縛られず、自分らしい時間の過ごし方をできる場所として生活の質を高めていくものと考えられている。
- このような小さなアクションが市民の手によって積み重なり、長期的な変化やムーブメントにつながっていくことで、よりクリエイティブで活力のある、豊かな文化に彩られた社会・まちに変わっていくことが期待される。

まちに新しい価値をもたらす道路空間の活用

くつろげる居場所づくり

